

第11回北海道大学触媒化学研究センター研究討論会

「分子触媒の新しい仕掛け」報告

去る2000年12月1日、2日と北海道大学学术交流会館にて第11回北海道大学触媒化学研究センター研究討論会「分子触媒の新しい仕掛け」が開催されました。以下のプログラムにあります講師の先生方をお迎えし、大変活発な討論が行われました。なお、本研究討論会の予稿集の残部がありますので、入手希望の方は、触媒化学研究センター大洞宛 (Tel, FAX (011) 706-3697, email: obora@cat.hokudai.ac.jp) ご連絡下さい。

プログラム

2000年12月1日(金)

13:30 ~ 13:35

開会の辞 (北大触セ・センター長)

魚崎 浩平先生

13:35 ~ 14:15

イントロダクションにかえて - 14族

元素化合物の錯体触媒反応 -

(北大触セ) 辻 康之先生



14:15 ~ 15:00

含窒素配位子の多様な配位様式を活か

した重合触媒の開発

(阪大院基礎工) 真島和志先生



15:15 ~ 16:00

ホスト-ゲスト系を利用した触媒系の

設計と開発

(阪大院理) 原田 明先生



16:00 ~ 16:45

pH変化を利用したキノンアクア錯体

の酸化還元反応

(北大院理) 柘植 清志先生



16:45 ~ 17:30

典型金属触媒を用いた有機反応の制御

に関する理論的研究

(山口大工) 堀 憲次先生



2000年12月2日(土)

9:00 ~ 9:45

結合活性化と錯体触媒反応に関する

理論的研究

(熊本大工) 榊 茂好先生



2000年12月2日(土)

9:45 ~ 10:30

- アリルパラジウムを中間体とする

アレン類の触媒的合成

(京大院理) 小笠原正道先生



10:45 ~ 11:30

二核金属錯体による酸素分子の結合と

活性化の化学

(金沢大理) 鈴木正樹先生



11:30 ~ 12:15

アセチレンジコバルト錯体を用いる環

骨格構築法の開発

(北大院理) 谷野 圭持先生



13:30 ~ 14:15

配位環境を制御した非ヘム系金属酵素

モデルの構築と酸素種との反応(名工

大工) 増田秀樹先生



14:15 ~ 15:00

ピリジン誘導体、ベンゼン誘導体の選

択的な合成法の開発

(北大触セ) 高橋 保先生



15:00 ~ 15:45

末端アルキンの触媒的trans-ヒドロホ

ウ素化反応

(北大院工) 宮浦 憲夫先生



学触
会媒
小
海
道
地
区
報

No. 117

当番

大洞 康嗣

obora@cat.

hokudai.ac.jp

次回

多田 旭男

新任教官紹介

鳥本 司 先生(助教授) torimoto@cat.hokudai.ac.jp

北海道大学触媒化学研究センター触媒機能設計部門触媒反応化学分野大谷研究室の助教授として10月1日付けで着任いたしました。早いもので、家族ともども4人で大阪から引っ越してきましたから、すでに2ヶ月が過ぎようとしています。この間に北海道は秋が終わり、初冬となってしまったことにひどく驚いています。札幌は大変住みやすく、また子供の教育にも良い場所であると多くの方からお聞きしているのですが、関西以外では住んだことのない妻と私ですので、冬の北海道を無事過ごせるか少々不安に思っています。いまのところ、室内は、冬の大阪に比べてはるかに暖かく過ごしやすいことに安堵しています。また、家の窓からスキー場が見えて、日々、白くなって行くことにもワクワクしています。

9月までは大阪大学大学院工学研究科物質化学専攻で、半導体粒子の機能化と光電気化学特性制御を主題として研究してきました。この研究を通して比較的広範囲な学問分野に接することができ、いくつかのものを自分のものとして取り込むことができたと思います。特に半導体ナノ粒子に興味を持ち、その調製・単分散化法を開発してきました。さらに半導体ナノ粒子の光電気化学特性および光触媒活性の評価を行うとともに、新規な機能性材料としての利用を目指して研究してきました。9月末に北海道大学に移る際には、“これから何か新しいことをやってやろう”と意気込んできました。幸い、新天地である北海道では、活発に討論して下さる多くの先生方がいらっしゃいますので、心強い限りです。今後は、これまでの手法をさらに発展させるとともに、自由な発想のもとに光エネルギーの化学的な有効利用法の開発・環境科学への応用について研究していきたいと考えております。

今後とも、お世話になることが多々あるかと思いますが、なにとぞよろしくお願いいたします。